

10月24日の「原発いらん！ in 上関集会」に参加しました

若狭連帯行動ネットワーク 久保

26日の反原子力デーの一環として、10月24日、上関町室津の埋立地において、「原発いらん！ in 上関集会」が開催されました。

大阪の地を午前7時に離れました。3人を乗せた車は、快適に山陽道を走り続け、正午には上関に着きました。

山戸さんの事務所を伺い、大阪から参加したことを話し、記念写真を撮りました。途中には原発建設推進宣伝の看板もあり、緊迫感が漂ってきました。

ぼつぼつと降る雨でしたが、集会が始まる午後1時半には本降りとなり、野外集会が不可能でした。どうなるかと心配をしていましたが、会場を移動するとのアナウンスがありました。

原発反対のはちまきをしめ、幟をかかっていた地元の人たち、北は北海道、南は鹿児島まで全国各地から一千人の上関原発に反対する人々が集まり、集会とデモ行進を敢行しました。

集会場は室津の中央公民館に変更し、集まってくる人々は部屋の中で整然と整列をし、お互いに気遣いながらその場に座り集会が始まりました。

主催者からのあいさつで、田ノ浦に反対運動の拠点が移って1年経つが、埋立てを阻止し続けていることを力つよく報告され、COP10（名古屋市開催）が開催されている最中に、中電が埋立てに向けて台船を埋め立て予定海域に入れようとしていること、「ここを埋め立てされてしまうと、生活権が奪われる、死活問題である」と、自然を守るため、自らの生活を守るため、抗議行動を粘り強くおこなっている現在の緊迫した局面の報告がありました。今こそ止めなければならないという気持ちが強くなる瞬間でした。

集会のメインである、山口県周南市出身の飯田哲也さんによる講演。演目は「上関原発の不要性と自然エネルギーの可能性」を端的に話をされました。

- ① 原発推進をかかげる日本は、自然エネルギー革命の時代が到来し、完全に立ち後れてしまったこと。
- ② 太陽光発電、風力発電などの自然エネルギー利用のエネルギー政策は、政治主導でおこなえば実現可能であること。
- ③ 雇用問題でも自然エネルギー政策は、多くの雇用を生み出すこと。
- ④ 自然エネルギー革命の時代に到来下自覚を持ち、反原発、脱原発運動を展開すること。
- ⑤ 原発の電気に頼らない「祝島自然エネルギー100%構想」が、自分自身も関わって進行していること。などが報告されました。

大分県から、支援団体連帯の各地からの代表としてあいさつがありました。「この集会に60名が参加しました。この周防灘の対岸に私たちの住む大分県があります。いろんな面で運動の連帯が必要です。果敢に闘っておられる祝島に（200万円以上）のカンパを手渡します」と、力強い連帯のあいさつでした。

集会後にデモに移りました。その前に山戸さんから、緊急報告として、「四代沖の台船が帰り支度をしました。撤退をしました。すこしほっとしています」との報告なされ、参加者全員の大きな拍手に包まれました。大きな活力がふくらむ瞬間でした。

いよいよデモですが、雨は振り続けます。埋立予定地を出発し、室津の渡船場付近を周り、2列の隊列は大きな流れとなり、元気なシュプレヒコールがこだまします。

少し雨が小雨になる中、屋外集会場に結集し、集会宣言を採択しました。天候には恵まれませんでしたが、上関原発建設反対の運動としては、前進した集会となりました。「原発には夢がない」「原発反対は、明日、未来のための運動」を確認でき、参加者みんなが意気揚々とし、「自分たちの闘いが間違っていない、正しい闘いだ」と確信できたのではないのでしょうか。「明日からも頑張るぞ!」という顔、顔、顔。

私たちも元気をもらった行動となりました。上関原発建設反対運動に連帯します。